

これからのおわら温泉街を描く

～温泉街の「日常使い」の促進と、「回遊性・滞在性」の強化を目指して～

令和7年9月6日（土）から11月9日（日）までの期間、湯のまち広場を中心としたあわら温泉街で、「あわら湯のまちみらいプロジェクト」の社会実験を実施しました。

この取り組みは、あわら温泉街が今後どのように変わっていくのかを、市民や来訪者と共有するための社会実験です。温泉街の各所に将来をイメージした仕掛けを設け、まちの雰囲気や使い方を体験してもらいました。

期間中は、飲食や物販、浴衣レンタルなどのサービスを試験的に行い、温泉街で「食べる・買う・歩く・過ごす」といった楽しみ方がどのように広がるかを検証しました。また、湯～わくStandをはじめとするまち歩きの拠点づくりや、夜のライトアップ、「よるもうで」などの企画を通じて、昼だけでなく夜も楽しめる温泉街の在り方を探りました。

これらの取り組みを通して、温泉街を観光の目的だけでなく、日常的にも訪ねたくなる場所として、まちの中を歩きながら長く滞在してもらえる環境づくりにつなげることを目指しました。

主な取り組み

① あわら温泉 湯のまち広場

ベンチやテーブルの設置、カフェの出店などにより、ゆっくり過ごせる空間づくりを行いました。また、閑散期にイベントを実施し、温泉街の新たなぎわい創出を試みました。



①あわら温泉湯のまち広場
②湯～わく Stand (現・つるや駐車場)

② 湯～わく Stand (現・つるや駐車場)

温泉街を歩いて巡る際の案内拠点として仮設整備しました。市内外の飲食や物販、美容、ワークショップなどが日替わりで出店し、地元住民と観光客との交流の場となりました。

③ 湯けむり横丁 (空き店舗活用・駐車場移転)

空き店舗や屋外席を活用して横丁空間を広げるとともに、駐車場の移転により、見通しが良く、くつろげる空間を整えました。

④ 三薬師・アメリカフウ並木道 (よるもうで・夜間景観)

夜の温泉街を楽しめるよう、ライトアップなどの夜間景観づくりと三薬師めぐりを実施しました。照明の設置や管理には、温泉三区の皆さんにご協力いただきました。



▲ホームページ

⑤ つるや店舗スペース

店先スペースを活用してカフェ出店を行い、湯のまち広場や湯～わく Stand、街なかをつなぐ動線が生まれました。

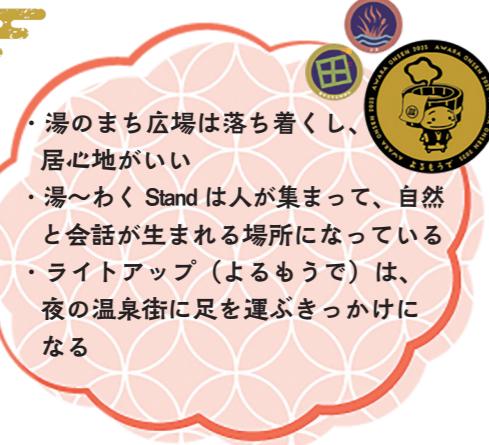
⑥ 湯～わく Dori

照明の明るさを調整するなど、温泉街らしい通りの演出を行いました。沿線の店舗や旅館と連携し、通り全体で景観づくりに取り組みました。



来訪者の声

良かった点



- ・湯のまち広場は落ち着くし、居心地がいい
- ・湯～わく Stand は人が集まって、自然と会話が生まれる場所になっている
- ・ライトアップ (よるもうで) は、夜の温泉街に足を運ぶきっかけになる

改善点

- ・取り組みの場所や内容が分かりにくい
- ・夜道が暗く不安に感じる
- ・駐車場が足りない
- ・ライトアップの規模をもっと大きくしてほしい

湯～わく Stand 出店者の声

良かった点



- ・地元の人も気軽に集まる場所になっている
- ・案内所の横にあり、多くの人の目に留まりやすい
- ・メイン通りに面しているため、足を止めて立ち寄ってもらいややすい
- ・ライトアップやスペースの広さがちょうどよい

改善点

- ・駐車場の数が少ない
- ・地元の人への周知が十分ではない
- ・雨の日はその場で飲食しづらい
- ・音楽があると、さらに雰囲気がよくなる

取り組みを続けていくことの大切さ
今回の社会実験には、多くの市民や旅館関係者、飲食店などの皆さんに参加協力いただきました。こうした盛り上がりを一時的なものにせず、課題の解決に向け、今後も継続的に取り組みを進めていきます。

課題と今後の取り組み
魅力的な空間を保ち続けていくためには、日々の状況に応じて柔軟に対応できる管理や運営が必要です。広場や湯～わく Stand では、出店者や市民、観光客と温泉街の各エリアをつなぐ役割を担う人材が重要なとなるため、運営に関わる組織づくりについて検討していく必要があります。

市民や来訪者が交流する場として、イベントや情報発信の拠点となり、温泉街のにぎわいづくりに貢献しました。

社会実験で得られた成果

今回の社会実験により、市民の日常的な利用や来訪者の滞在時間の増加、温泉街を歩いて巡る動き、にぎわいの広がりといった効果を確認することができました。

湯のまち広場や湯～わく Stand、三薬師のライトアップ (よるもうで)、店舗スペースの活用、通りの演出などを組み合わせることで、温泉街全体を歩いて楽しめる環境づくりにつなぎました。中でも湯～わく Stand は、市民や来訪者が交流する場として、イベントや情報発信の拠点となり、温泉街のにぎわいづくりに貢献しました。

取り組みを続けていくことの大切さ
今回の社会実験には、多くの市民や旅館関係者、飲食店などの皆さんに参加協力いたしました。こうした盛り上がりを一時的なものにせず、課題の解決に向け、今後も継続的に取り組みを進めていきます。